

ザ・建設クイズ

ナラサキ産業(株) 経営企画部 IT戦略課
小澤 光司

1. まえがき

ナラサキ産業(株)は、建設業界に多くの顧客を持ち、建設資材・建設機械等の商品を提供している。当社ホームページに「ザ・建設クイズ」というコーナーを2004年5月より開設している。このコーナーは、企業としてのPRを目的としただけではな

く、日頃お世話になっている建設業界の技術者への「憩いの場」として企画されたものである。コーナー開設から約一年を経過し、現在、「ザ・建設クイズ」へのアクセスは、月間1万ページビューを超えるまでになった。「憩いの場」として技術者の皆様から認知されたものと判断し、感謝の気持ちとさ



図 - 1 パナーメニュー



図 - 2 トップページ

らなる内容の充実を目指す決意を表す意味で、今回、本誌にその概要をご紹介させて頂く。

なお、当社ホームページの URL は <<http://www.narasaki.co.jp>> である。トップページ(図 - 1)にて左側下部に設置したバナーメニュー「ザ・建設クイズ」をクリックすると「ザ・建設クイズ」のトップページ(図 - 2)が表示される。トップページからは、NEWS(更新情報)、Q&A(読者からの質問コーナー)、建設分野以外のクイズ、建設分野のクイズ、建設分野の商品紹介にアクセスできる。

2. 「ザ・建設クイズ」開設の目的

建設に関係する分野は非常に裾野が広く、膨大で

多岐にわたる知識が要求される業界である。また、建設分野の建設物は非常に公共性が高く、長い期間にわたり安全性を確保しながら供用される関係から、社会的責任が強く要求される分野である。このために豊富で正確な知識と豊かな経験が常に求められ、新しい技術や各種最新情報の収集が必要とされている。

建設業界に限らず、すべての業界で共通に言えることではあるが、知識というものは常に使用していないと知識そのものが曖昧なものとなる。長い期間にわたり使用されていない知識や技術は陳腐化してしまい、正確に理解するためには参考文献等により再確認する必要がある。しかし、適当な参考文献等が手元にない場合は、その業務を避けることになる。「ザ・建設クイズ」は、こういう事態に直面した時、参考書の一部として利用できれば幸いと考え、基本的な知識・情報を中心に作成されている。技術者の皆様の知識や情報の劣化防止に役立てて頂ければ、目的は達成されたものと考えている。

忙しい業務の合間の休憩時間に、「ザ・建設クイズ」で「憩いの場」を有効に利用して、技術者の知識や情報のリフレッシュができるようなクイズ内容の提供を心がけている。

また、クイズ形式ではないが、最新の情報源でもある「専門誌」の目次(特集の見出し等)を一覧できるページもあり、情報収集の手助けとして利用されればと考えている。

3. 「ザ・建設クイズ」の内容

「ザ・建設クイズ」は、「建設分野以外の専門事項」「建設分野の関連事項」「建設分野の種別事項」「Q&A コーナー」の4つに分かれて掲載されている。現時点での掲載内容を次に示す。

建設分野以外の専門事項

- 一般 「単位」「技術基準」「ご存知」「なぜ」
- 数学 「はじめに」「交点」「微分積分」「面積」
- 物理 「座標」「水理」「運動」「円運動」「GPS」「GIS」
- 力学 「影響線」「設計法」
- 環境 「法律等」「EA21」「地球環境」「地域環境」「建設廃棄物」「森林吸収」「京都議定書」

建設分野の関連事項

- 材料 「鋼材」「コンクリート」「塗装」「溶接橋」
- 技術 「計測技術」「性能設計」「土質」

地震 「年表」「流動化」「液状化」「震源」「加速度」

基礎 「直接基礎」「木杭」

建設分野の種別事項

一般 「専門誌」「土木学会誌」「かんきょう」「道路」「土木施工」「環境管理」以上はクイズではなく、2000年以降の特集等の主な目次のみを掲載したもの。

橋梁 「耐用年数」「床版」「東京の橋」「鋼橋」
道路 「道路交通」

Q&A コーナー

読者からは、随時、メールにて、ご質問を受け付けている。読者からの質問は「ザ・建設クイズ」に掲載されている事項以外についても、可能な限り回答している。クイズとして掲載されている質問の回答は、基本的にはクイズ作成者が行う。それ以外の質問については編集部において、質問内容によりその分野の専門家に回答の依頼をしている。回答はなるべく早くするように努めているが、正確な回答を心がけているために遅くなることもある。回答は「Q&Aの事例」で示すように簡素なものである。これは質問内容に対する情報不足が原因で誤解が生じ、間違った回答になることを避けるためである。このために、質問者と回答者の間で数回にわたりやり取りが行われる時もある。ここに掲載する全ての質問とその回答については、質問者の「掲載することについての了解」が得られたもののみである。質問者の了解が得られない場合は、掲載を避けている。

4. クイズ作成者

当社のIT戦略課に「ザ・建設クイズ」編集部を設置し、クイズ内容を企画し、その分野の専門家を調査してクイズの作成を依頼している。クイズ作成者の名前は発表できないが、専門分野に長年携わっている専門家である。作成者へのクイズ内容の依頼は、できる限り「広く浅く面白く」をモットーにしている。

「ザ・建設クイズ」に掲載される内容に対する「著作権」は、クイズ作成者に帰属する。このために「ザ・建設クイズ」に掲載されているものを、営利目的で使用する行為は事前に編集部の了解が必要となる。

5. クイズの審査

編集部の外部にある審査会でクイズの内容を審査

する。審査会での審査基準は次のとおりである。

内容が簡素であること。

「憩いの場」の提供であり、業務の合間の休憩時間を利用して閲覧されることを想定しているために、気軽に読める内容を要求している。

内容が正確であること。

内容の記述が、実際の業務に利用される場合もあると想定している関係上、内容は正確であることが要求される。

参考文献に信頼性があること。

を満足するために信頼性のある参考文献を厳選している。また、利用者への情報提供にもなる必要がある。

面白いこと。(関心を引く)

とおなじ理由から「面白い」ことを要求している。

上記の審査基準を達成していない場合は、クイズ作成者へ依頼して変更を行う。審査基準に合格したクイズのみを編集部に戻すことになる。

6. 編集方法

審査会が定めた審査基準に合格したクイズを、編集部において掲載方法等を検討してページ作成後、審査会の再審査を受け「ザ・建設クイズ」に掲載される。掲載内容の間違いについては、この企画があくまでも「憩いの場」の提供ということから、利用者からの指摘を最大限歓迎している。掲載内容の間違いは、主に、編集部での編集ミスやページ作成中に生じるもので、その点については細心の注意を払っているが寛大に解釈して、ミスの指摘をお願いしている。

7. 参考文献の優先順位

クイズ作成者には、参考文献の採用基準の優先順位を次のように依頼している。

公的機関の公開資料や技術基準:国等が提供する公開資料で、白書や通達・通知・ホームページ等に公開されている資料。技術基準とは国が定める道路標示方書等や指針類を指す。各自治体の資料については、地方独特の性状を示す場合、その取扱いに注意する。

学会・協会・組合・研究会・専門誌等の資料:土木学会誌や論文集等、公的な協会から提供された正確で信頼性の高い資料を指す。

大学・企業・個人等の情報:技術的に高い評価を

東京の橋

問題1

源頼朝が房総から東京を経由して鎌倉に入りました。この時、頼朝は隅田川をどのようにして渡りましたか。

解答1

問題2

現在、国道1号線等は日本橋が起点ですが、いつ頃からですか？

解答2

問題3

永代橋の建設は、いつ頃ですか？

解答3

問題4

その他の東京の主な橋は、いつ建設されましたか？

解答4

問題5

永代橋の事件とは？

解答5

問題6

横浜の初期の吉田橋は、いつ建設されましたか？

解答6

問題7

現在の日本橋は、いつ建設されましたか？

解答7

ザ・建設クイズ

図 - 3

受けていると判断されるもの。企業の宣伝広告等の取り扱いには注意をする。

8. 「ザ・建設クイズ」へのアクセス方法

下記の URL よりアクセス

<http://www.narasaki.co.jp/quiz/index.html>

以下は「まえがき」で示した方法でご自由に楽しんで頂きたい。

9. クイズの事例

クイズの事例として、「建設分野の種別事項」の 카테고리 「橋梁」より「東京の橋」の例を示す(図 - 3)。

10. Q&A の事例

(図 - 4)

11. おわりに

以上でナラサキ産業の「ザ・建設クイズ」の紹介を終わります。読者の各種指摘や要求に真摯に応えることにより、「クイズ内容の充実」や「クイズ分野の拡大」に努める予定である。読者の皆様と本誌橋梁編纂委員会の関係者に心より感謝の意を表します。

Q & A

質問1

「はじめまして、札幌の と申します。HPの主旨に合うかどうか判りませんが、お願い致します。先日、現地調査してきた既設橋梁について教えていただきたいことがあります。ポストテンション方式単純T桁橋です。主桁の下縁にクラックが橋軸方向に約1m程度発生しており、そこから遊離石灰が溶出している箇所が点在しております。(部位は支間中央とは限りません) 錆汁は含んでいない。このような状態となる原因、危険度、補修が必要な場合どのような方法が効果的なのかを教えてください。水道(みずみち)の存在 水の存在 遊離石灰溶出と理解しております。遊離石灰の溶出 危険度が高いと考えが良いものでしょうか。遮水(防水層など)を施す その時点で断面の健全性はどうか判断する??」

回答

ひび割れの調査もしないで、質問内容のみで推定いたします。

原因：シース内のグラウト不足と推定します。施工不良です。アンカー部より水が入りシースの低い所に溜まります。冬期に気温の下降により凍結し体積膨張が起こります。かぶりかひび割れを起こし遊離石灰が現れます。推定ですが遊離石灰の色は白のはずです。鉄分の腐食が少ないから錆汁は出ないでしょう。

危険度：ひび割れが拡大しなければ、特に問題ありません。

補修：ひび割れを放置はできません。補修すべきです。

補修方法：状態により異なりますが、ドリルで削孔して樹脂系充填材を注入して下さい。削孔は注入孔1ヶ所と左右のアンカー付近の2ヶ所とします。注入孔はウェブとしますが、正確な位置は超音波等で確認して下さい。シースの位置を確認する方法としては、電磁誘導法、レーダ法、自然電位法、分極抵抗法等があり適切な方法を採用して下さい。補修の時期としては、シース内の凍結がない時として、安全策として夏が適当と考えます。

注意事項：緊急性はないと思えますから、設計技術者の判断のみでなく、橋梁管理者と施工業者による類似事例の調査を依頼して、3者による協議により最終判断をすべきです。

KT・GA (2005-02-11)

図 - 4